社会を動かす薬学へ。
京都薬科大学

KPU NEWS
KYOTO PHARMACEUTICAL UNIVERSITY NEWS LETTER

Oct. 2026
vol. 227

#NEWS	先輩からの実践的な助言で グループディスカッション対策！ ー4・5年次生68名が「グループディスカッション実践ワークショップ」に参加ー	01
#ご挨拶	新任のご挨拶	03
#REPORT	【寄稿】名誉教授授与にあたって	03
#Feature Article	事務組織の改編について(2026年4月1日～)	04
#COLUMN	事務局お仕事紹介	05
#NEWS	生涯教育センターからのお知らせ	06
#REPORT	2027年度大学院薬学研究科 薬学専攻博士課程（夏季募集）の入学選考結果	07
#EVENT	2026年度6年次生 総合薬学研究 卒業論文発表会開催	07
#NEWS	2026年度公開講座のお知らせ	07
#NEWS	京薬会だより	08
#NEWS	2026年度 早期体験実習 「プロダクト発表・意見交換会」	09
#REPORT	2026年度京都薬科大学給付型奨学金表彰式を執り行いました	09
#EVENT	地域連携活動：理科実験講座 「身近な夏の不思議体験 2026 イン山科」開催	10
#COLUMN	卒業生からのメッセージ	11
#COLUMN	LIBRARY NEWS	12
#NEWS	人事	12
#NEWS	本学役員および評議員の改選について	13
#COLUMN	私の薦める、私の一冊	14
#REPORT	第111回薬剤師国家試験の結果について ー目標達成へ向けてー	16
#NEWS	学生相談室だより	18
#REPORT	受賞・掲載	19
#REPORT	京都薬科大学奨学寄附金芳名録	20

◆今後の企画立案のため、 読者層とニーズの把握を中心にした読者アンケートを実施しています。
本誌に関するご意見 ・ ご感想をお寄せください。
https://forms.cloud.microsoft/r/ZXS6txa8TR
所要時間 ： 2 分程度
回答期限 ： 2026 年 12 月 31 日 (木)
※本アンケートは本年 7 月号でお願いしたものと同様となります。 回答はお一人様 1 回を想定しておりますので、 既にご回答いただいた方におかれましてはご配慮いただけますと幸いです。

先輩からの実践的な助言でグループディスカッション対策！

ー 4・5年次生68名が「グループディスカッション 実践ワークショップ」に参加 ー

／進路支援課

選考本番を想定した２つのテーマに挑戦！

GD 実践ワークショップの様子

2026年6月24日、8月3日及び8月5日、主として4・5年次生を対象に、企業等の仕事体験・オープンカンパニー（旧称「インターンシップ」）や採用選考で課されることが多いグループディスカッション（以下「GD」という）への理解を深め、実践的な対応力を身につけることを目的として、「GD実践ワークショップ」を飛翔館ラーニングコモンズにて対面で開催しました。全3日程の参加学生は計68名（5年次生40名、4年次生28名）で、企業の就職活動を経験した6年次生の「就活サポーター」計13名がアドバイザーとして参加しました。有給の「学内ジョブ」であるサポーターは進路支援課が実施した事前説明会に参加し、議論の観察方法や学生への関わり方などについて、助言の観点を全員で共有しています。

ワークショップ当日は、参加学生が4名程度のグループに分かれて、実際の選考を想定した「基本」と「実践」の2つのテーマで議論を交わしました。各グループにはサポーター2～3名が同席し、議論の進め方や役割分担、発言内容、メンバーとの関わり方などの観察を行ってもらいました。議論終了後には、参加学生一人ひとりに対し、良かった点と今後の改善点について具体的なフィードバックも行ってもらいました。

一般に、GDでは自分の意見を述べるだけでなく、他者の意見を丁寧に聴く姿勢、複雑な議論を整理する力、周囲に働きかける力など、グループが一丸となって結論を導くことが求められます。今回のワークショップが、参加学生にとって自身の強みや課題を客観的に捉え、今後の就職活動に向けた行動を考える機会となることを期待しています。

参加した学生からは「先輩がとても親身になって向き合ってくださったのと、長所と改善点を優しく的確に助言してくださった」（4年次生）や、「自分では気づかなかった所について指摘していただけて、その後の具体的な解決案を教えていただけた」（5年次生）などの感想が寄せられており、4・5・6年次という学年の垣根を越えた、活発な成長の場となりました。

一方、サポーターにとっても自らの就職活動を振り返り、その経験や学びを後輩に伝える貴重な機会となりました。進路支援課では、今後も学年や所属の垣根を越えて学生同士が学び合い、互いの成長を支えられる機会を継続して設けていきたいと考えています。参加いただいた4・5年次生、そして6年次生の皆さん、ありがとうございました。

就活サポーターからのメッセージ

薬剤学分野　6年次生　竹田（たけだ） 汐音（しおね）

GD実践ワークショップにサポーターとして参加したきっかけは、薬剤学分野に所属し、就職活動の際に先輩方からGDや面接対策など多くのご指導をいただいた経験があり、今度は私も少しでも後輩の力になりたいと考えたからです。

ワークショップでは、4・5年次生の方々が非常に真摯に取り組み、終了後もGDだけでなく就職活動全般について積極的に質問に来てくれる姿が印象的でした。アドバイスを素直に吸収し、2回目のGDでは改善点をすぐに実践していたことや、アクセル役・ブレーキ役など異なる役割に挑戦しながら議論を進めていた姿から、大きな成長を感じました。京都薬科大学の学生の方々は真面目で向上心が高いと改めて感じました。

自信を持って就職活動に臨み、このような対策活動を研究室やさまざまなコミュニティでも継続し、お互いに高め合っていただければと思います。参加させていただき、私も非常に楽しかったです。ありがとうございました。

薬物治療学分野　6年次生　中野（なかの） 裕太（ゆうた）

自身の就職活動で得た経験を後輩に還元したいという思いから、サポーターとして参加しました。参加学生が限られた時間の中で意見を整理し、互いの考えを尊重しながら議論を深めていく姿が印象的でした。フィードバックでは、良かった点だけでなく改善点も具体的に伝えることで、後輩達が前向きに受け止め、実践している様子を見ることができ、大きな成長を感じました。

また、このような機会は就職活動前の学生にとって、自分の強みや課題を客観的に見つめ直せる貴重な機会であると感じました。就職活動では、選考結果や周囲と比較して悩み苦しむ時期が誰しも訪れると思います。しかし、そのような中でも自分自身と向き合い、一つひとつの経験を積み重ねることは、必ず将来の力になります。後輩達には、このワークショップを成長のきっかけとして、自信を持って就職活動に臨んでほしいと思います。

参加者の皆さん

就活サポーターのお二人（左：中野さん、右：竹田さん）

新任のご挨拶

薬学教育系教育研究総合センター
臨床薬学教育研究センター

教授　尾上（おのうえ）　雅英（まさひで）

2026年7月1日付で臨床薬学教育研究センター教授を拝命いたしました。

私は1994年に本学を卒業後、神戸薬科大学大学院に進学しました。1996年に修士課程を修了後、京都大学医学部附属病院薬剤部に入職し、病院薬剤師として業務・教育・研究に従事してまいりました。2009年に京都大学にて博士（医学）の学位を取得しました。

2013年、公益財団法人田附興風会 医学研究所北野病院の薬剤部長に着任し、薬剤部のマネジメントに加えて、病院執行部の一員として病院運営にも携わってきました。

この30年間、病院薬剤師の業務は、調剤を中心とした対物業務から患者を中心とした対人業務に大きく転換し、さらにチーム医療の充実が図られてきました。その中で、私は臨床業務を行いながら、患者さんから得られた情報を収集・評価する臨床研究、また、地域の病院薬剤師会の研修教育担当として、病院薬剤師の生涯研修に関わってきました。

浅学の身ではありますが、これまでの臨床での経験を活かし、教職員や他の医療機関の医療従事者と連携を取りながら、本学の発展に貢献できればと考えております。ご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

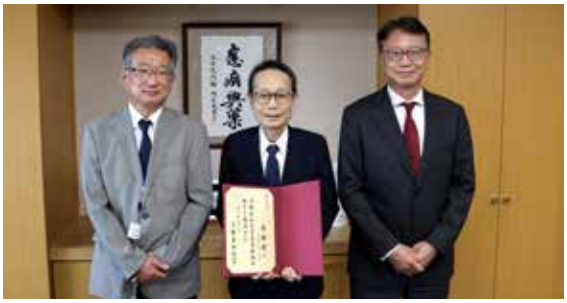
REPORT

【寄稿】名誉教授授与にあたって

赤路（あかじ）　健一（けんいち）

2026年6月30日に名誉教授称号（第59号４月１日付）をいただきました。伝統ある京都薬科大学より大変名誉な称号をいただき、嬉しく誇りに思っております。厚く御礼申し上げます。

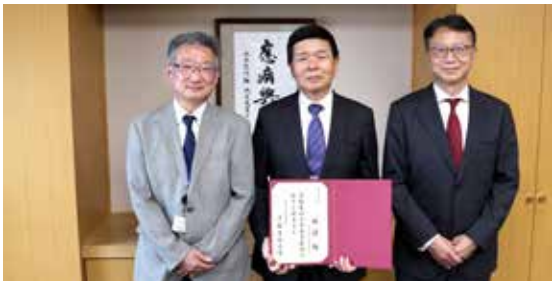
私は、平成最初の10年と平成から令和にかけての15年を京都薬科大学で過ごさせて頂きました。最初の10年は4年制薬学課程、後の15年は6年制薬学課程でした。このカリキュラム変革と並行してキャンパス整備も進み、JRの車窓から一瞥してわかるほど大学の面目が一新されました。思いがけず在職の最後数年は、京都薬科大学を日本の薬系大学の中で頭抜けた存在とすべき任務を与えられました。多くの優秀な先生や事務職員の方々に支えられたにも関わらず力不足で結果をきちんと出すまでには至りませんでしたが、教職員や理事の皆様に支えられつつ務められた事にあらためて感謝申し上げます。本学の益々のご発展を確信しております。



橋詰（はしづめ）　勉（つとむ）

2026年6月30日（火）に学長室にて、名誉教授の称号を賜り「名誉教授称号証書」を拝受いたしました。また、木曽誠一理事長、平田收正学長から温かいお言葉をいただきました。伝統ある京都薬科大学からこの称号をいただくことを大変光栄に存じます。本学を卒業後、40年間教員として籍をおき、薬学6年制移行という転換期に微力ながら貢献できた背景には、在職中に賜った教職員の皆様からのご指導とご支援があったからこそと思い、関係の皆様に改めて厚くお礼を申し上げます。

今後とも活気ある若い力がキャンパスに溢れる光景を期待するとともに、皆様のご健勝と京都薬科大学の更なるご発展を祈念いたします。

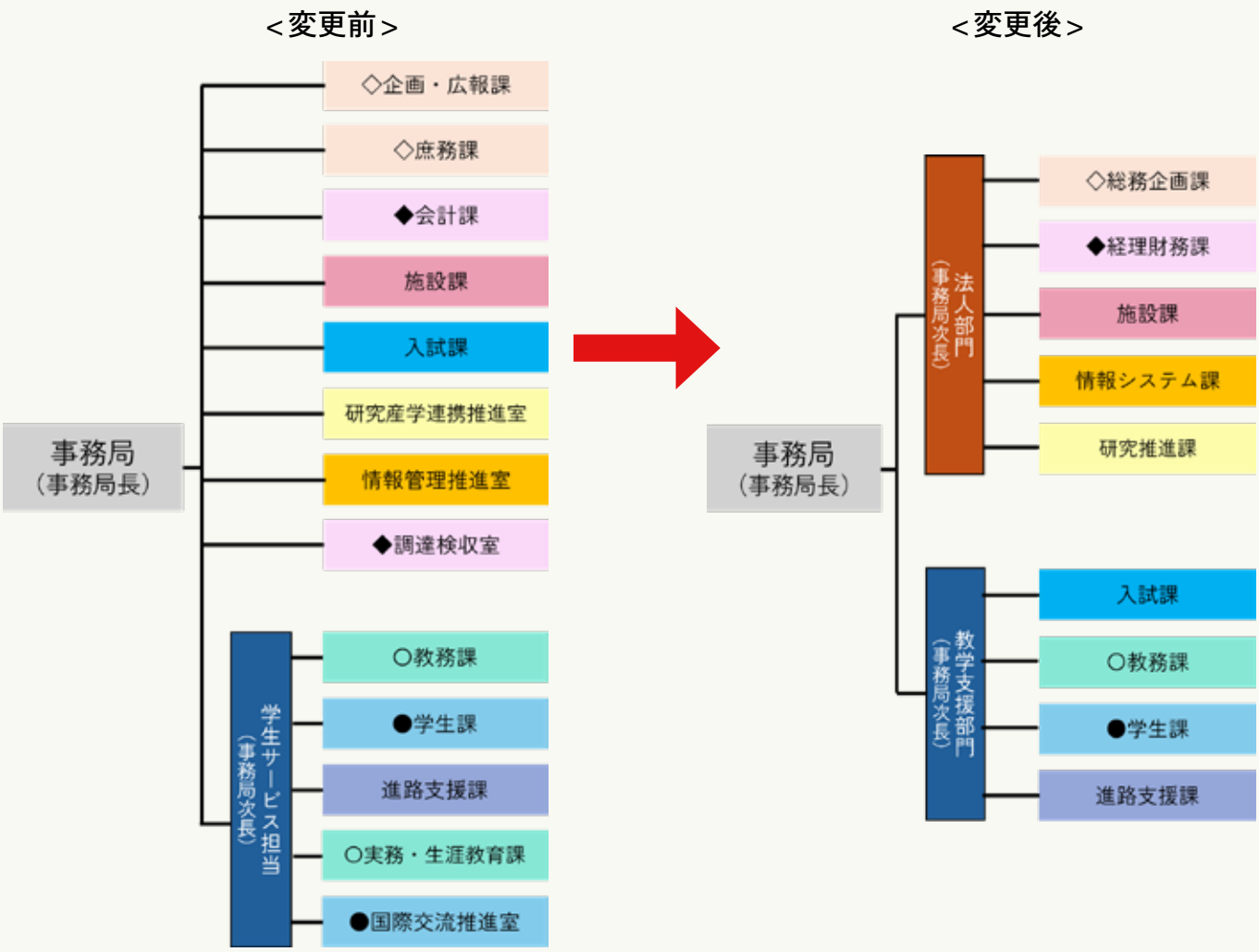


Feature Article

事務組織の改編について（2026年4月1日～）

本学事務局は2026年4月1日に以下のとおり事務組織の再編を行いました。
事務局全体の業務効率の改善および学生・職員へのサービス品質の向上につなげていきます。

新しい事務組織について



「企画・広報課」と「庶務課」は「総務企画課」として、「会計課」と「調達検収室」は「経理財務課」として各課の業務を統合し、法人部門として大学運営に携わります。また「情報管理推進室」「研究産学連携推進室」についても業務内容に応じて部署名をそれぞれ変更いたしました。

教学支援部門としては生涯教育プログラムなどを実施していた「実務・生涯教育課」と「教務課」が統合し、本学学生・教員のサポートおよびリカレント教育についても充実させることを目的としています。留学関係の業務を担当していた「国際交流推進室」は「学生課」と統合し、今後も本学学生のサポートを充実させていきます。

さいごに

今回の事務組織再編で、私たち事務局が何より大切にしているのは、学生の皆さん一人ひとりが安心して学び、充実した学生生活を送り、それぞれの目標に挑戦できる環境をつくることです。授業や履修、実務実習、奨学金、課外活動、留学・国際交流など、学生生活の中で困ったことや分からないことがあれば、どうぞ遠慮なく事務局に相談してください。相談先が分からない場合や、複数の課に関係する内容であっても、事務局内で情報を共有し、必要な支援へ確実につなぎます。また、事務局再編の効果を活かし、申請様式や手続の見直し、オンライン手続の拡充、問い合わせへの迅速で分かりやすい回答を進め、サービス向上に努めてまいります。

学生の皆さんの声は、大学をより良くするための大切な出発点です。寄せられた意見や要望を真摯に受け止め、再編の効果を具体的なサービス向上として実感していただけるよう、職員一人ひとりが部署の枠を越えて連携し、皆さんの学びと成長を全力で支えてまいります。あわせて、保証人、卒業生、地域・医療関係者など、本学を支えてくださる皆さまから信頼される事務局を目指してまいります。今後とも、事務局への率直なご意見とご協力をよろしくお願いいたします。

事務局長　森 洋介

事務局お仕事紹介

第10弾
総務企画課

こんにちは。KPU$_{NEWS}$編集委員です。今回は、総務企画課を取材させていただきました！今年度の組織改編に伴い新設された総務企画課について、どのような業務を行っているのかを紹介します。

総務企画課は愛学館の7階にあり、12名の方が働いています。主な仕事内容としては、先生や職員などの給与・手当の管理や人事・採用、労働環境の整備や式典の運営、大学運営に関する各種業務などを行っています。また文部科学省からの調査依頼を受けて学内の各課から情報を収集し、調査結果をまとめる業務も担当されています。この業務は、特に時間を要する大変な仕事だそうです。また、今回の取材で私たちが一番驚いたことは、式典で学長が読まれる蛇腹の式辞用紙を手作りで作っていることでした。

そんな総務企画課は、職員の採用や卒業式、入学式などが重なる年度末が一番忙しくなるそうで、普段学生と直接接する機会は少ないですが、快適な学生生活を送れるよう環境を整えてくださっています。

このように総務企画課が行っている様々な仕事を紹介してきましたが、1つの仕事を集中して行う訳ではなく、様々な仕事を役割分担しながら同時進行で行うため、全てが問題なく完了した際に達成感を得られるとおっしゃっていました。

最後に、総務企画課から学生の皆さんに向けてのメッセージをこちらで紹介します。

「学生の皆さんが快適な学生生活を送れるようこれからも本学の運営や管理を行っていきますので、ぜひ働いている職員を知ってもらえたら嬉しいです。」とのことでした。

皆さん総務企画課について、少し身近に感じられたでしょうか。より効率的に大学の業務を行うための組織改編によって誕生した新しい部署に取材でき、私たちも非常に良い経験となりました。ではまた次回。

バックナンバー

第1弾 企画・広報課／No.212（2023年1月号）
第2弾 進路支援課／No.213（2023年4月号）
第3弾 情報管理推進室／No.214（2023年7月号）
第4弾 教務課・学生課／No.216（2024年1月号）
第5弾 入試課／No.218（2024年7月号）
第6弾 実務・生涯教育課／No.219（2024年10月号）
第7弾 研究産学連携推進室／No.221（2025年4月号）
第8弾 会計課／No.224（2026年1月号）
第9弾 施設課／No.226（2026年7月号）

掲載されているKPU$_{NEWS}$は本学公式Webサイト（https://www.kyoto-phu.ac.jp/journal/kpu_news.html）よりご覧ください。

News ｜ 生涯教育センターからのお知らせ

／生涯教育センター

「現在申込受付中」および「今後申込受付を開始予定」の研修会をご紹介します。皆様のご参加をお待ちしています。

2026年度ｅラーニング講座

卒後教育講座と京都漢方研究会例会の講義をオンデマンド配信します

配信期間中いつでも申込可！
24時間いつでも視聴可！

＊配信期間：～2027年2月28日(日)
＊参加費：①全視聴コース 30,500円、②当年度コース 22,500円、③卒後コース 20,500円、
④漢方コース 24,500円　（各コースとも事務手数料500円を含む）
＊申込受付期間：2027年2月25日(木)まで
＊認定単位：G24　1単位／コンテンツ
＊過去にｅラーニング講座や卒後教育講座を受講して既に認定単位を取得しているコンテンツは、視聴は可能ですが単位の認定はありません。

（コンテンツ数）

コース		参加費	2026年度		2025年度	
			卒後教育講座	京都漢方研究会	卒後教育講座	京都漢方研究会
①	全視聴	30,500円	10	12	10	12
②	当年度	22,500円	10	12		
③	卒後	20,500円	10		10	
④	漢方	24,500円		12		12

2026年度実務支援セミナー

～在宅医療における注射薬の設備導入とポイント～

【20名限定！】
12月からお申込み開始、お申し込みはお早めに！

当日は、無菌混合調製の実技実習、在宅支援薬局の薬剤師による実践的な講義、参加者間の情報共有や意見交換を行います。無菌混合調製の手技や基本知識の事前配信動画を視聴のうえ参加していただきます。参加者間で日頃の疑問等も共有できますので、地域連携薬局を目指す薬局・薬剤師の方々はこの機会をぜひご活用ください。

＊開催日時：2027年2月28日(日)　10:00～16:00
＊開催場所：京都薬科大学　臨床薬学教育研究センター
＊定員：20名（薬剤師限定）
＊参加費：10,500円（受講料10,000円、事務手数料500円）
＊申込受付期間：2026年12月16日(水)～2027年1月31日(日)
＊認定単位：G24　4.5単位（事前ｅラーニング(90分)1単位含む）

プログラム		
事前配信（e-ラーニング：90分）		・注射薬無菌混合調製に必要な基本的知識　・外来化学療法の実際
10：00～10：10	挨拶・移動	・開講挨拶、一日の流れ説明
10：10～12：40	実技実習	・衛生的手洗い(ラビング法、スクラブ法)　・ガウン、手袋、帽子、マスクの装着 ・注射薬混合調製（アンプル、バイアルの取り扱い、薬液採取、陰圧操作） ・TPNバッグの取り扱い　・ガウン脱衣
12：50～13：35	ランチョンミーティング	受講者間での意見交換
13：35～14：55	導入講義	・無菌設備導入に関する制度改正と環境の変化 ・2024年調剤報酬改定での無菌製剤に対する報酬の変化 ・PCAポンプを使ったオピオイドの無菌調製（デモ、グループごとに体験あり）
15：00～16：00	情報共有	・事前動画や実技実習に対する質疑応答 ・自施設における注射調剤の問題点や課題の共有

● **申込方法**　生涯教育センターWebサイトよりお申込みください。
https://skc.kyoto-phu.ac.jp/

● **問合せ先**
京都薬科大学 事務局 教務課
＊E-mail：s-center@mb.kyoto-phu.ac.jp
＊TEL：075-595-4613
＊FAX：075-595-4792

生涯教育センター Webサイト

ｅラーニング講座 申し込みページ

実務支援セミナー 申し込みページ

REPORT

2027年度大学院薬学研究科 薬学専攻博士課程(夏季募集)の入学選考結果

／入試課

2027年度大学院薬学研究科薬学専攻博士課程(夏季募集)の入学選考を8月21日(金)に実施し、8月27日(木)に合格発表を行いました。入学選考の結果は次の通りです。

○2027年度大学院薬学研究科薬学専攻博士課程（夏季募集）

志願者数	9名
受験者数	9名
合格者数	9名

EVENT

2026年度6年次生 総合薬学研究 卒業論文発表会開催

／教務課

2026年6月15日（月）～16日（火）の午後、創立130周年記念館で2026年度卒業論文発表会を実施しました。両日とも梅雨の晴れ間で、約360名の6年次生が3年次後期の分野（研究室）分属からの3年間で取り組んできた研究の成果をポスター形式にまとめ、英語で発表しました。

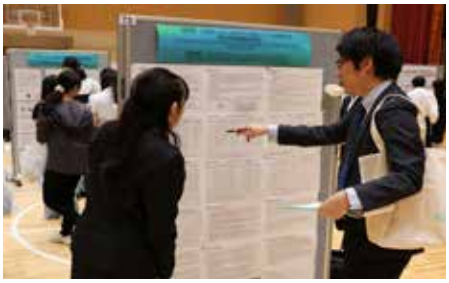
薬学専門教育科目「総合薬学研究Ａ～Ｂ」は3年次後期から6年次前期まで所属する分野等（研究室）の教員指導のもと、課題研究について研究手法を習得し、研究の楽しさ・難しさを学び、得られた結果を検討し、成果をまとめて、6年次の卒業論文発表会で発表します。

卒業論文発表会では1人の学生の発表に対して2名の教員がディスカッション・評価を行いました。学生たちは専門領域が異なる複数の教員から、より多角的な指導を受けることができ、発表後に取り組む論文執筆にも良い影響が出ることが期待されています。

また、今年度からまだ研究室に所属していない1～3年次生も参加できるようになりました。参加者は将来、どの研究室で、どのような研究を行いたいかを考える機会となり、発表者との活発な議論によって、研究意欲の喚起や発表者となる心構えができたと考えられます。

今年度の発表会も多くの学生が参加し、盛会のうちに全日程を終えることができました。関係者の皆様には厚く御礼申し上げます。

会場の様子



教員とのディスカッションの様子

News

2026年度 公開講座のお知らせ

／総務企画課

2026年10月25日(日)に京都薬科大学 公開講座を実施します。今年度は3つのテーマに分かれ、最新のがん治療や地域医療、薬用植物についてそれぞれの専門分野の講師から分かりやすくお伝えします。

会場や参加申込方法などの詳細は右記URLまたは二次元コードより大学公式Webサイトをご覧ください。

詳細はこちら

https://www.kyoto-phu.ac.jp/event/nid00000223.html

News | 京薬会だより

1 2026年代議員総会の実施

6月27日（土）飛翔館H41講義室において、ハイブリッド方式により、代議員総会を開催しました。台風7号、8号のダブル接近の影響で、交通網の乱れる中、全国から代議員並びに会長表彰受賞者166名が参集しました。今年度は、本部役員改選の年であり、神川邦久氏（1981年卒）が、第10代会長に選任されました。所信表明では、誰もが魅力を感じる京薬会を目指し、「会員ファーストの組織運営」、「大学との連携の強化と支援」、そして、京薬ブランドのさらなる発展のために昨年度策定した「京薬会ビジョン」の実行フェーズに邁進することを力強く述べられました（京薬会Webサイトや京薬会誌162号に関連記事掲載）。

京薬会Webサイト（会長の挨拶）：http://www.kpu-aa.com/about_us/greeting/

2 ホームカミングデーの開催予告

10月24日（土）に2年ぶりとなるホームカミングデーを大学と連携の上、関西地区の京薬会6支部と共同して開催します。3月に竣工したばかりの「飛翔館」をメイン会場とし、学長 平田收正先生のご講演の他、新薬の承認を取得されたベンチャー企業社長である卒業生を講師として迎えます。今後京都薬科大学が目指す発展的な将来像をテーマとした講演会の後は、参集した卒業生と在学生の親睦を企画しています。詳細は、順次「京薬会Webサイト」でご紹介していきますので、是非ご参加ください。

京薬会Webサイト：http://www.kpu-aa.com/

3 歴史資料室より

★オープンデーの実施

毎月20日前後の午後をオープンデーとして歴史資料室を開放しています。歴史資料室 鈴木前室長の解説を希望される場合は京薬会にご予約ください。

★ミニ展示（9月1日～11月20日）

女子部設置120周年：京薬における女子生徒・女子学生の歴史を紹介する「京薬と女子」を展示。

日本薬局方140周年：「第十九改正日本薬局方」が、本年4月10日に厚生労働省から告示されましたが、第1回の日本薬局方の公布は、京薬創設2年後の1886年（明治19年）でした。関係の資料や書籍を歴史資料室で展示し、図書館では同館所蔵書籍を展示。

★卒業生から歴史資料室への寄贈 / 情報提供

1）1943年（昭和18年）のアルバムの寄贈：歴史資料室に未所蔵だったアルバム。

2）1892年（明治25年）、京都私立独逸学校の別科が、私立京都薬学校（富小路二条上ル）として独立した時期、京都の薬剤師たちが『京都薬報』などの雑誌を刊行していました（歴史資料室や図書館で所蔵）。これらに関係する情報などを卒業生から得ることができました。

★『愛学躬行歴史資料室レター』No.11の刊行

図書館120周年を記念して、同窓会誌の『薬窓誌』を中心に、「中野忠八（七世）と図書閲覧室の設置ー京都五条の大忠七代目当主、明治後半の京薬生から昭和の京薬の理事長へー」を刊行しました。

REPORT

2026年度 早期体験学習「プロダクト発表・意見交換会」

／教務課

2026年7月16日（木）に本学創立130周年記念館で1年次科目「早期体験学習」のプロダクト発表・意見交換会が行われました。

このプログラムは学生が主体となって、これまでの「早期体験学習」で取り組んだ内容を題材にグループに分かれて議論を行い、役割分担やテーマ設定、最終発表のポスター作成まで取り組みました。

プロダクト発表・意見交換会では自他のグループの発表を聞いて意見交換しました。発表・意見交換会終了後は学生及び教員の投票により、ベストポスター賞を決定しました。選ばれたポスターは愛学館1階に掲示されました。

プロダクト発表・意見交換会の様子

教員による質疑応答の様子

ベストポスター賞

REPORT

2026年度京都薬科大学給付型奨学金表彰式を執り行いました

／学生課

本学では、優秀な人材の育成、成績向上並びに活力の醸成を図ることを目的に、給付型奨学金制度を設けております。今年度は、合計81名（大学院入試成績優秀者、学部成績優秀者、研究・課外活動優秀者）の奨学生が選出され、奨学金が給付されました。表彰式は、6月30日（火）に執り行われ、木曽理事長から奨学生の心構えについての訓示と、表彰状が授与されました。理事長祝辞では、「努力を続けてきた成果が表れた結果だと思います。これからも努力を重ね、さらなる成長を目指してください」との言葉が贈られました。

学生の修学支援のためのこれらの奨学金は、卒業生（京薬会会員）、法人役員、職員、教育後援会会員の皆様からのご寄付により成り立っております。

皆様からの多大なるご協力に本誌面をお借りして厚く御礼申し上げますとともに、引き続きご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

表彰状授与の様子

奨学生の皆さん

EVENT

地域連携活動：
理科実験講座「身近な夏の不思議体験 2026 イン山科」開催

学生実習支援センター　|　徳山（とくやま） 友紀（ゆき）

7月26日（日）に本学「飛翔館」H21実習室にて、市民組織「山科区『はぐくみ』ネットワーク実行委員会」と共に、理科実験講座「身近な夏の不思議体験 2026 イン山科」を開催しました。午前と午後の二部制で実施し、合わせて95名の小学4～6年生が参加しました。地域の小学生に理科の楽しさを知ってもらいたいと始まった本講座は今年で15回目を迎え、山科区の小学生にとって夏の恒例行事になっています。また、今年は新校舎「飛翔館」の実習室で開催し、参加された皆さんに新しい施設の雰囲気も感じてもらうことができました。

今年のテーマは「ヨウ素デンプン反応」です。当日は学生実習支援センター教員と総務企画課職員のほか、地域ボランティアスタッフのサポートのもと、2つの実験を通して身近な科学の不思議を体験しました。

1つ目の実験「デンプンをうがい薬で調べよう」では、ヨウ素を含むうがい薬を使い、ポテトチップスなど普段食べているお菓子にデンプンが含まれているかどうかを調べました。また、もち米とうるち米をつぶした液にうがい薬を加え、デンプンの構造の違いによる色の変化を観察しました。その結果から、それぞれのお米の特徴をデンプンの構造と関連付けて学んでもらいました。「これは青紫色になると思う！」など、スタッフと一緒に色の変化を予想しながら楽しく実験に取り組む様子が印象的でした。

どんな色になるかな？

結果をまとめてみよう

2つ目の実験「電気の力で紙に字を書いてみよう」では、ヨウ化カリウム水溶液の電気分解を利用し、デンプン水溶液を浸み込ませた紙に自由に文字を書いたり、絵を描いてもらいました。「すごい！書けた！」など子どもたちから感嘆の声が聞こえ、時間いっぱいまで夢中になって取り組んでいました。

実施後のアンケートでは「実験の仕方もわかりやすく、とても楽しい実験ができてよかったです。」、「自分の好きなお菓子などでも実験できるのが身近だなと思いました。」、「今まで、不思議に思ったことがたくさんあったので、身近な不思議について調べられてよかったです。」などの感想が寄せられ、参加した子どもたちに実験を通して、身近な科学、またその楽しさに触れてもらえたことをとても嬉しく思います。

自由に字や絵を描いて楽しみました

上手に書けました！

また、「身近な物が実験に使えるので、家でもやりたいと思いました。」、「また家で、今日やった実験をやってみたいと思います。」など家でもやってみたいという声もあり、理科への興味喚起およびその継続のきっかけにもなったと感じています。

本講座の実施にあたり、25名の地域ボランティアスタッフの方々にご協力いただき、各実験台にて子どもたちの実験をきめ細やかに指導・支援していただきました。この場を借りて市民組織「山科区『はぐくみ』ネットワーク実行委員会」の皆様に深く感謝申し上げます。

地域ボランティアスタッフのサポートは
欠かせません

今後も地域に根差した大学の役割として、近隣学区の小学生の理科教育の一助となれるよう、市民組織と共にこの活動を継続していきたいと考えています。なお、本講座は独立行政法人 国立青少年教育振興機構「子どもゆめ基金助成活動」の助成を受けて実施しました。

COLUMN

卒業生からのメッセージ

限られた時間の中での挑戦

私は本学在学中、細胞生物学分野に所属し、藤室教授のもとで、細胞ストレスによる細胞内ユビキチンの挙動解析に関する研究に取り組みました。私は細胞生物学分野の初代の学生で、先輩のいない状態から研究室が立ち上がったこともあり、先生方や同期と研究室で過ごす時間も長く他愛もないことを話す機会も多くなり、研究室がとても楽しかった印象があります。

私自身の研究については、比較的早い段階で細胞ストレスによって顕著に挙動が変化する分子を発見していましたが、その分子の同定はなかなか進まず、新しい実験方法や条件検討を試している間、失敗の連続で卒業までに成果を形にできないかもしれないと不安に感じることも多かったです。しかし、同期が真摯に自身の研究に向き合う姿や学会発表で表彰されている姿を目の当たりにすると、私も同じように結果を出したいと思い、めげずに研究を続けました。その結果、最終的には分子の同定に成功し、先生方の多大なるご指導のもと、卒業までに論文の作成まで行うことができました。こうした成功体験や研究室で培った継続力は、現在の仕事においても生かされています。

就職活動中には、薬剤師が病院や薬局だけでなく、さまざまな分野で活躍していることを知りました。その中で、衛生に関する多様な分野の業務に携わることができる点に魅力を感じ、就職先として行政薬剤師を志望しました。私は、2016年に堺市役所に入庁し、薬局等の許認可業務や感染症対策業務を経て、現在は、環境衛生業務に携わっています。新型コロナウイルス感染症が流行した際には、感染症対策に従事し、先の見えない未曾有の事態のなかで、市民の安全・安心に十分に応えられるだろうかと、不安になることも幾度もありましたが、大学時代に培った継続力を支えに、職務を全うすることができました。市民の方から直接、「安心して療養期間を終えることができた。」などと感謝の言葉をいただき、大きなやりがいを感じました。

振り返ると、大学生活6年間の限られた時間の中で部活動やアルバイト、研究室や国家試験対策など、たくさんの経験や体験が得られるチャンスがありました。皆さんもいろんなことに挑戦してください。そこから得た経験というのは今後の人生の中できっとどこかで役にたちます。皆様の貴重な学生生活を応援しています。

中田（なかた） しおり
2016年 学部卒業
細胞生物学分野

堺市役所
健康福祉局保健所生活衛生課
主査

LIBRARY NEWS

図書館

データベースを使ってみよう！ -Scopus-

図書館では複数のデータベースを契約していますが、今回はエルゼビア社が提供する世界最大級の抄録・引用文献データベースScopus（スコーパス）をご紹介します。Scopusには世界7,000社以上の出版社の29,000誌以上のジャーナルをはじめ、全分野（科学・技術・医学・社会. 科学・人文科学）において査読済みの豊富なコンテンツが収録されています。英語文献を検索するだけでなく、何（誰）を引用しているか、何（誰）に引用されているかといった参考文献情報も表示されるため、被引用数の多いインパクトの高い重要な文献を探し出したり、CiteScore（あるジャーナルに出版された論文が平均で何回引用されたかを示す指標）等、さまざまな指標によって、論文やジャーナル等の影響力を確認できるので、研究分析にも非常に役立ちます。論文情報のみに限らず、著者名で検索すると出版物別の文献数や文献のタイプ、分野の内訳等の項目がグラフで表示され、著者分析が容易にできるほか、当館では所属機関検索機能を利用して、京都薬科大学に所属する教育職員が執筆した論文情報を収集し、毎月、Webサイトと館内に設置したデジタルサイネージで広く紹介しています。

Scopusは同時アクセス制限がありませんので、学内ネットワークに接続した端末からいつでもご利用いただけます。また、ユーザー登録のうえ、リモートアクセス設定をすれば、学外からでも利用できます。Scopusを活用して、効率的に研究を進めましょう！

本学図書館の開館日程についてはホームページをご覧ください。
https://www.kyoto-phu.ac.jp/library/

News | 人事

採用

薬学教育系教育研究総合センター
臨床薬学教育研究センター　教授　尾上　雅英
（任期：2026.7.1～2036.6.30）

再任用

生命薬科学系細胞生物学分野　教授　藤室　雅弘
（任期：2026.7.1～2031.6.30）

昇格

事務局教務課　課長補佐　加納　良章
（前 事務局教務課 係長）

事務局経理財務課　主事　冨松　南月
（前 事務局経理財務課 事務員）

事務局教務課　主事　伊藤　息吹
（前 事務局教務課 事務員）

事務局教務課　主事　金嵜　茜
（前 事務局教務課 事務員）
（以上 2026.7.1 付）

退職

事務局経理財務課　主事　清水　芳美
（2026.8.31付）

News | 本学役員および評議員の改選について

本学役員および評議員の任期が2026年6月26日をもって満了したことに伴い、改選を実施いたしました。
新役員および評議員は、以下の通りです。

寄附行為で定める 選任区分	氏名	就任日	役職
7-1-1(学長)	平田　收正	2026年6月26日	常任理事
7-1-2(副学長)	栄田　敏之	2026年6月26日	常任理事
7-1-3(評議員経験者)	大﨑　祥子	2026年6月26日	理事
7-1-3(評議員経験者)	串田　ゆか	2026年6月26日	常任理事
7-1-3(評議員経験者)	中山　祐治	2026年6月26日	理事
7-1-3(評議員経験者)	西口　工司	2026年6月26日	理事
7-1-3(評議員経験者)	平田　敦宏	2026年6月26日	理事
7-1-4(有識者)	神川　邦久	2026年6月26日	常任理事
7-1-4(有識者)	木曽　誠一	2026年6月26日	理事長(常任理事)
7-1-4(有識者)	田中　徳雄	2026年6月26日	理事
7-1-4(有識者)	中田　繁樹	2026年6月26日	理事
25-1(監事)	岡本　光弘	2026年6月26日	監事
25-1(監事)	北出　達也	2026年6月26日	監事
34-1-1(職員)	秋葉　聡	2026年6月26日	評議員
34-1-1(職員)	加藤　伸一	2026年6月26日	評議員
34-1-1(職員)	斎藤　博幸	2026年6月26日	評議員
34-1-1(職員)	森　洋介	2026年6月26日	評議員
34-1-1(職員)	安井　裕之	2026年6月26日	評議員
34-1-2(卒業生)	大脇　弘之	2026年6月26日	評議員
34-1-2(卒業生)	隠岐　英之	2026年6月26日	評議員
34-1-2(卒業生)	木村　誠	2026年6月26日	評議員
34-1-2(卒業生)	髙間　茂生	2026年6月26日	評議員
34-1-2(卒業生)	新留　香二	2026年6月26日	評議員
34-1-2(卒業生)	西本　佳夫	2026年6月26日	評議員
34-1-2(卒業生)	西森　康夫	2026年6月26日	評議員
34-1-2(卒業生)	宮川　克之	2026年6月26日	評議員
34-1-3(有識者)	中川　祥子	2026年6月26日	評議員
34-1-3(有識者)	岡本　和宏	2026年6月26日	評議員
34-1-3(有識者)	佐々木　孝雄	2026年6月26日	評議員
34-1-3(有識者)	津田　正博	2026年6月26日	評議員
34-1-3(有識者)	樋口　敏宏	2026年6月26日	評議員
34-1-3(有識者)	藤岡　敬之	2026年6月26日	評議員

私の薦める、私の一冊

『スタンフォード大学オンライン高校の校長が教える 世界の研究に基づいた 勉強法大全』

星　友啓 著
KADOKAWA (2026年)

薬学教育研究センター
助教　吉村（よしむら） 典久（のりひさ）

私は薬学教育研究センターで、学生の学修相談や勉強法のアドバイス、問題解説などを行っています。特に薬剤師国家試験対策が本格化する秋冬には、「効率よく覚えたい」「応用問題も解けるように理解を深めたい」「学んだことを定着させたい」といった相談を多く受けます。そのたびに、より効果的な学修支援の方法を模索してきました。

そんな中で出会ったのが、星友啓著「スタンフォード大学オンライン高校の校長が教える 世界の研究に基づいた 勉強法大全」です。

著者の星氏はスタンフォード大学オンライン高校の校長として、多くの学生を指導してきました。本書では、脳科学や教育心理学の研究成果をもとに、「集中力を操る」「記憶力を最大化する」「理解力を上げる」などのテーマについて、100の実践的なテクニックが紹介されています。ただし、順番に読む必要はなく、目次を見て気になった項目や今の自分に必要だと思う内容から試してみることが推奨されています。

本書の中でも、私が特に印象的だった「ブレインダンプ」という勉強法を紹介します。学んだ直後に白紙を用意し、何も見ずに3～5分程度で学んだ内容を書き出します。その後、教科書やノートを見ながら重要事項や不足している内容、誤っていた箇所を別の色で補います。この方法は、自力で思い出す「検索練習」によって記憶の定着を促し、知識同士の関連や理解の不足を可視化できる点が特徴です。普段から教科書やノートを何度も読み返しているのに思うように覚えられないという学生には、ぜひ試してほしい方法です。

また、本書で紹介されている内容は、記憶や理解といった勉強法だけではありません。本番で実力を発揮する方法やモチベーション維持の工夫、さらには食事や睡眠など学びを支える生活習慣まで幅広く扱われています。勉強法に絶対的な正解はありませんが、本書は科学的根拠に基づいて自分の習慣や勉強法を見直すきっかけを与えてくれる一冊です。学生はもちろん、学生支援に携わる皆さまにもおすすめしたいと感じました。

本書で紹介されているテクニックも、実際に試しながら自分にあった勉強法を見つけることが大切です。薬学教育研究センターは飛翔館1階にあります。学修に関する悩みごとがあれば気軽にお越しください。一緒に解決策を考えていきましょう。

『幼年期の終り』

アーサー・C・クラーク 著
早川書房 (1979年)

総務企画課
清水（しみず） ほのか

この本を手に取ったきっかけは、「善意の侵略」という設定に惹かれたからです。宇宙人が地球にやって来る物語と聞くと、多くの人は侵略や戦争を想像するのではないでしょうか。私も最初は、人類が圧倒的な力を持つ宇宙人に支配され、虐げられる話だと思っていました。しかし、本書で描かれるのはその逆です。

ある日、巨大な宇宙船が地球上空に現れます。人類は恐怖に包まれますが、宇宙人たちは敵意を示しません。彼らは戦争や差別、貧困といった問題を解決し、人類に平和と繁栄をもたらします。その姿は侵略者というより救世主に近く、「こんな宇宙人なら歓迎したい」と思わせるほどです。

しかし、読み進めるうちに違和感が生まれます。彼らはなぜ地球へ来たのか。本当の目的は何なのか。人類に幸福を与えているように見える一方で、どこか得体の知れない不安が付きまといます。この不思議な感覚が最後まで読者を引き込みます。

本書の魅力は、宇宙人とのファーストコンタクトを描くだけでなく、「人類とは何か」「文明の発展とは何か」という大きなテーマを扱っている点です。作中では科学技術の発展によって週の労働時間は20時間程度となり、生活必需品も無料で手に入ります。働くことに追われる必要がなくなった世界は、一見すると理想郷のように思えました。私自身も「働かなくていいなんて最高だ」と思いながら読んでいました。しかし同時に、もし本当にそうなったら自分は何をするのだろう、とも考えました。生きがいや目標をどこに見いだすのか。豊かで平和な社会が実現したとして、それは本当に人類にとって幸せなのか。登場人物たちの葛藤を通じて、読者自身にも問いが投げかけられます。

1953年に発表された作品ですが、古さを感じることはありません。むしろ現代にも通じる内容が多く、発表から長い年月が経った今でも読み継がれている理由がわかります。そして終盤、物語は想像もしていなかった方向へ進んでいきます。詳しくは書けませんが、読み終えた後にタイトルの意味を改めて考えさせられ、しばらく余韻が残りました。

SFが好きな方はもちろん、普段あまりSFを読まない方にもおすすめしたい一冊です。壮大なスケールと深いテーマを兼ね備えた、長く記憶に残る作品だと思います。

REPORT

第111回薬剤師国家試験の結果について ー目標達成へ向けてー

／薬学教育研究センター長　八巻 耕也

1年次生から6年次生までの皆さん、それぞれに目標を立てて学修していることと思います。皆さんが将来受験する薬剤師国家試験に向けて道案内になることを期待して、国家試験の結果に関する情報とそれに対する学修方法について記します。

第111回薬剤師国家試験は2026年(令和8年)2月21日、22日に実施されました。試験会場では受験生は様々な表情で会場に入っていきました。多かれ少なかれ緊張していたことと思います。模擬試験などでしっかりと学修し、試験の受け方をシミュレーションすることで、その緊張を集中力に変え、実力の発揮につなげることができます。大学やそのほかの場所での学修に、真剣に取り組んで緊張を集中力へ昇華させる力を養ってください。

表1のように、今回の試験では国公私立併せて76大学14,261名が出願し、受験者総数は12,774名でした。合格者は 8,749名で合格率は68.49% (第110回：68.85%) でした。6年制新卒の全国合格率は 86.25%(第110回：84.96%)と比較して、6年制既卒の全国合格率は41.33%(第110回:43.94%)と例年同様かなり低いものでした。本学では新卒337名が受験し、合格者は302名(合格率 89.61%)、6年制既卒者は45名受験して合格者は 19名(合格率 42.22%)、4年制既卒者は2名受験して合格者は0名、これらを合わせた本学総合合格率83.59%でした。

表1. 第111回薬剤師国家試験の結果の概要（引用　厚生労働省 HP）

(1) 男女別合格率①

区分	総数	男		女	
出願者	14,261名	5,575名	(39.09%)	8,686名	(60.91%)
受験者	12,774名	4,929名	(38.59%)	7,845名	(61.41%)
合格者	8,749名	3,192名	(36.48%)	5,557名	(63.52%)
合格率	68.49%	64.76%		70.83%	

(2) 男女別合格率②

区分		総数	男		女	
6年制新卒	出願者	8,856名	3,195名	(36.08%)	5,661名	(63.92%)
	受験者	7,781名	2,785名	(35.79%)	4,996名	(64.21%)
	合格者	6,711名	2,393名	(35.66%)	4,318名	(64.34%)
	合格率	86.25%	85.92%		86.43%	
6年制既卒	出願者	5,257名	2,282名	(43.41%)	2,975名	(56.59%)
	受験者	4,871名	2,063名	(42.35%)	2,808名	(57.65%)
	合格者	2,013名	781名	(38.80%)	1,232名	(61.20%)
	合格率	41.33%	37.86%		43.87%	
その他（旧4年制卒、受験資格認定者）	出願者	148名	98名	(66.22%)	50名	(33.78%)
	受験者	122名	81名	(66.39%)	41名	(33.61%)
	合格者	25名	18名	(72.00%)	7名	(28.00%)
	合格率	20.49%	22.22%		17.07%	

(3) 設置主体別合格率

区分	総数				6年制新卒				6年制既卒				その他			
	出願者	受験者	合格者	合格率	出願者	受験者	合格者	合格率	出願者	受験者	合格者	合格率	出願者	受験者	合格者	合格率
国立	634名	607名	482名	79.41%	506名	494名	434名	87.85%	81名	72名	34名	47.22%	47名	41名	14名	34.15%
公立	414名	404名	335名	82.92%	336名	335名	308名	91.94%	69名	63名	26名	41.27%	9名	6名	1名	16.67%
私立	13,212名	11,762名	7,931名	67.43%	8,014名	6,952名	5,969名	85.86%	5,107名	4,736名	1,953名	41.24%	91名	74名	9名	12.16%
その他	1名	1名	1名	100.00%	-	-	-	-	-	-	-	-	1名	1名	1名	100.00%
本学	401名	384名	321名	83.59%	349名	337名	302名	89.61%	50名	45名	19名	42.22%	2名	2名	0名	0.00%

本学では1年次から6年次までの6年間にわたり、効果的なカリキュラムを準備しています。昨年度は6年次においては、前期に基礎力を醸成する薬学演習、後期に薬剤師国家試験を見据えたアドバンスト薬学という2つの演習科目を設定し、さらに小テストや模擬試験、外部講師による講義などを実施しました。その結果、本学新卒合格率は 89.61%と全国新卒と比較して高い水準となり、特に新卒合格者数／新卒出願者数では 86.53%と全国屈指の高値となりました。

表2のように、今回の第111回薬剤師国家試験（2025年度）の合格基準が426点以上／686点満点（1問2点で343問）であるのに対し、前回の第110回（2024年度）の合格基準は426点以上／690点満点（1問2点で345問）と、ほぼ変化はありませんでした。また、全国新卒合格率も第111回は86.25%、第110回は84.96%とほぼ変わらないことを考え合わせると、合格難易度は第111回と第110回では同程度と考えられます。大きな変化があったわけではありませんので、在学生の皆さんは落ち着いて現在取り組んでいる学修を続けていきましょう。

表2. 第111回と第110回の薬剤師国家試験結果の比較（引用　厚生労働省HP）

	合格基準　（1問2点）	全国新卒合格率	本学新卒合格率
第111回　（2025年度）	426/686 点満点	86.25%	89.61%
第110回　（2024年度）	426/690 点満点	84.96%	90.88%

6年次生の皆さんへ。

卒業後も皆さんは、お互い様々な場面で協力し合う機会があると思います。今、隣にいる同級生は、社会に出てからも大切な仲間であり頼れる薬学のプロになります。ひとりでも多くの仲間と社会を動かし薬学そして人々に貢献していくために、京都薬科大学の6年次生全員が1つになって皆で目標を達成するように助け合い、導き合うことを期待します。

第111回の薬剤師国家試験の特徴を4つ挙げます。

(1) 化合物の構造や解剖図などの基礎分野と臨床分野を絡めた問題が増加

(2) 薬剤学分野を始めとして、全体的に式や図、グラフを含めた問題が増加

(3)「ロモソズマブ」「オシロドロスタット」など、初めて出題される薬物の増加

(4)「経口避妊薬」やノーベル賞を受賞した「制御性T細胞」といった時事問題の出題

本学では今年度も前期に薬学演習、後期にはアドバンスト薬学が開講されます。上記の特徴を意識しながら受講することで効果的な学修ができます。頑張ってください。

4年次生、5年次生の皆さんへ。

各分野・センターで研究活動を行っていることと思います。病院、薬局で実務実習をされている方もいるでしょう。それぞれの場所で、薬剤師国家試験のことを意識してください。活動から修得した知識は応用性も高く、忘れにくいものです。薬剤師国家試験問題を先に軽く見ておいて、現場で出てきたもの、体験したものを使って問題を解ける知識を修得する。これがとても有効です。薬剤師国家試験までの期間は有限です。今から学修を進めていきましょう。

2年次生、3年次生の皆さんへ。

体力、時間とも自由が利く時期です。たくさんのことを全力で行っていくとよいのではないでしょうか。社会生活、学修、課外活動など、様々な経験が皆さんの未来への糧になります。学修においては、少しずつ薬学のことが分かってきていると思います。この時期に自分の得意分野を伸ばし、苦手分野をなくすように勉強を進めると、4年次以降の学修にとても効果的です。なかなか難しいとは思いますが、余剰の時間を無為に過ごすのではなく、学修にできるだけ充てるように意識してください。

1年次生の皆さんへ。

大学に入って、約半年が過ぎました。期待通り楽しんでいる部分がある一方、想像とは違う部分があり、戸惑っている方もいるかもしれません。大丈夫です。京都薬科大学で学修を進めれば、皆さんも先輩方のように成長していくことができます。1つ、実行してもらいたいと思うことがあります。それは薬学の中に自分の「ひいき」「推し」を作ることです。「イベルメクチン」、「制御性T細胞」、「質量分析」、何でもいいのです。生活の中でそれにかかわる物事が出てきたら、積極的に情報収集して理解し、自分の知識とする。そうすると得意分野ができます。それは自信に繋がり、次の行動への原動力になります。慣れていない生活の中では厳しいかもしれませんが、少しずつ実行してみてください。応援します。

大学の学修では困難にぶつかることもあるかもしれません。そのような場合、各科目の勉強法や内容に関する質問については各教員が設定している「オフィスアワー」を、学修に関する悩みや相談については、薬学教育研究センターの「学びコンシェルジュ」をぜひ利用してください。

学生相談室だより

誰かの支えとなるためのゲートキーパー活動について

臨床心理士　上野 みな子

／学生課

10月10日はWHOが制定している世界メンタルヘルスデーです。

令和7年1月の厚生労働省の報告書によると、日本における精神疾患の患者数は令和5年度には、600万人を超えており、10年前と比較するとその数は約2倍となっています。

また、メンタルヘルスの問題と切り離せない深刻な問題として、自死問題がありますが、令和7年度の統計では、日本において19,188名もの人が自死を選択しています。平成15年をピークにその数は減少しつつあるものの、依然として日本のメンタルヘルス政策上の大きな課題の一つとなっています。

自死については、とてもセンシティブな話題でもあり、普段生活している中であまり表に出てこない話題でもあるかもしれませんが、10月は世界メンタルヘルスデーということもあり、自死予防という観点から、ゲートキーパー活動を取り上げてみたいと思います。

みなさん、ゲートキーパーという言葉をご存じでしょうか？

ゲートキーパーとは、WHOが自死予防のための重要な戦略の一つとして挙げている存在のことで、「悩んでいる人に気づき、声をかけてあげられる人」のことです。精神科医などの専門家が自死リスクの高い人に介入するアプローチだけではなく、日常的な人間関係の中でのサポートが自死予防に不可欠であるという認識から発展した考え方であり、必要とされる存在です。

ゲートキーパーには、4つの役割が期待されています。その4つの役割とは「変化に気づく」「じっくりと耳を傾ける」「支援先につなげる」「温かく見守る」というもので、その全てでなくとも、どれか1つができるだけでも、悩んでいる人にとっては大きな支えになると想定されています。ゲートキーパーとなるには、特別な資格・研修が必要なわけではありませんが、各地で養成のための研修プログラム等が実施されています。

メンタルヘルスを悪化させる大きな要因の一つは「孤独・孤立」です。たとえ、集団の中にいても、家族や友達がいても、本人が「誰も自分のことをわかってくれていない」「本当はとてもつらいのに誰にも言えない」等と感じてしまうとだんだんと孤立感へとつながっていきます。そんなとき、周囲にいる誰かが「変化に気づき、じっくりと耳を傾け、必要に応じて支援先につなげつつ温かく見守ってくれる」ことでだんだんと気持ちの変化が起こりうるかもしれません。

下記に掲載している厚生労働省のHPには、ゲートキーパーに関する様々な情報が掲載されています。その中でも、ゲートキーパー養成研修用テキストでは、具体的な声掛けの仕方や、関わり方のロールプレイのシナリオも掲載されており、「若者編」や、「薬剤師編」など、学生のみなさんが直接参考にできそうな内容もあります。興味のある方はぜひご覧ください。

参考URL
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/seikatsuhogo/gatekeeper1.html

学生相談室のご案内

学生生活の中で問題や悩みに出くわしたとき、独りで抱え込むのではなく気軽に相談室をご利用ください。

相談は臨床心理士・公認心理師の資格を持つカウンセラーが担当し、学業、進路、課外活動、将来、対人関係、性格、家族、心身の健康についてなど、事の大小に関わらず学生生活に関わる様々な悩みや問題について幅広い相談をお受けしています。学生ご本人だけでなく、保証人や教職員の方からの相談も可能です。

相談申込み・問い合わせ先

相談を希望される方は下記申し込みフォームまたはメールにて予約をお願いいたします。相談は無料です。なお、対面相談のほかに、オンライン相談（電話またはTeamsの音声通話）も実施しております。相談方法につきましてはカウンセラーにご相談下さい。その他詳細はお問合せ下さい。

学生相談室 育心館 4階

■開室（受付）時間：月～金　8：45～17：15　■電話：(075)595-4672（建部）/（075)595-4686（上野）

■学生相談室メール：gakusou@mb.kyoto-phu.ac.jp　申込フォーム：https://www.kyoto-phu.ac.jp/contact/student.html#/

受賞・掲載

分子腫瘍学分野の森 昌也さんが第12回 がんと代謝研究会at山中座において優秀ポスター賞を受賞しました

2026年6月25日(木)に開催された第12回がんと代謝研究会at山中座において、分子腫瘍学分野 博士課程3年次生の森 昌也さんが優秀ポスター賞を受賞しました。

受賞者：分子腫瘍学分野 博士課程3年次生　森　昌也
演　題：xCT/GGCT阻害によるシステイン枯渇を介した膠芽腫のフェロトーシス誘導
演　者：森　昌也
共同研究者：飯居宏美、曽根夕日、藤田貢、中田晋

本学の学生2名が第9回フレッシャーズ・カンファランスにおいて優秀演題発表賞を受賞しました

2026年7月4日(土)・5日(日)に開催された第9回フレッシャーズ・カンファランスにおいて、本学の学生2名が優秀演題発表賞を受賞しました。

【口頭発表】
受賞者：臨床薬剤疫学分野 博士課程4年次生　水野　香菜子
演　題：大規模保険請求情報を用いた発熱性好中球減少症の初期治療におけるカルバペネム系薬とその他の抗緑膿菌作用を有するβ-ラクタム系薬との臨床転帰の比較
演　者：水野 香菜子
共同研究者：豕瀬 諒、村木 優一

【ポスター発表】
受賞者：薬理学分野(総合薬学研究B・実践薬学コース・先端薬剤師ユニット)6年次生　濱田 彩月
演　題：循環器領域における診療ガイドラインの活用度と集中治療領域における薬剤師の役割
演　者：濱田 彩月
共同研究者：須藤多実香、坂口公美、生島繁樹、地嵜悠吾、田中智之、北田徳昭

臨床薬剤疫学分野 村木教授の受賞講演が薬事日報に掲載されました

臨床薬剤疫学分野 村木教授が2026年6月20日に医療薬学フォーラムで行った受賞講演について薬事日報(2026年7月1日)に掲載されました。

理科実験講座「身近な夏の不思議体験2026イン山科」について京都新聞に掲載されました

本学にて山科区の小学4～6年生を対象に開催した理科実験講座「身近な夏の不思議体験2026イン山科」について、京都新聞(2026年7月27日)に掲載されました。

新聞記事の一覧についてはこちら
https://www.kyoto-phu.ac.jp/journal/publish.html

＼読者アンケート実施中／

読者アンケートを実施しています。
本誌に関するご意見 ・ ご感想をお寄せください。
所要時間 ： 2 分程度
回答期限 ： 2026 年 12 月 31 日 (木)
https://forms.cloud.microsoft/r/ZXS6txa8TR

京都薬科大学
寄付金芳名録

下記の方々からご寄付をお寄せいただきました。ご協力ありがとうございました。

＊敬称略、芳名のみ掲載しております。
＊100万円以上を頂いた方は、愛学館エントランス『京都薬科大学 高額寄付者顕彰銘板』にも掲載させて頂きます。
＊区分については原則、寄付をいただいた際の申告に基づき作成しております。

2026年6月～2026年8月にご寄付をお寄せいただいた方々

卒業生・同期会等（五十音順）

東　富雄
栗田　淳子
中村友規子
奈邉　健
野儀優比子
山岸　伸行
渡邊　萬里

企業・団体・一般（五十音順）

アミール動物病院
穴井　直博

キノンビクス株式会社

法人役員・評議員・職員等（五十音順）

池田　正澄（名誉教授）
乾　賢一（名誉教授）
中谷　庄吾（課長）

（2026年8月31日現在）

●ご寄付のお願い

本学では皆様からのご寄付で様々な支援を行っています。
引き続き温かいご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。
詳細は本学公式Webサイトよりご覧ください。
https://www.kyoto-phu.ac.jp/about/donation.html

KPU NEWS No.227
2026年10月発行　編集：KPU NEWS 編集委員会　発行：京都薬科大学
〒607-8414 京都府京都市山科区御陵中内町5　（総務企画課）
※本誌掲載の文章及び写真の無断転載を禁じます。